

ポスト真実時代と市民社会

日比嘉高 (名古屋大学大学院人文学部准教授)



「信じたいウソ」が「事実」に勝る世界

— 今回の特集では、「情報」と「事実」について、市民社会・市民活動

という視点から考えたいと思います。情報にまつわるキーワードとして、最近では「ポスト真実 (post-truth)」や「フェイクニュース」という言葉を耳にするようになりました。日比さんは津田大介さんの共著で『「ポスト真実」の時代 「信じたいウソ」が「事実」に勝る世界をどう生き抜くか』¹を昨年出されました。最初に「ポスト真実」について教えてください。

ポスト真実は、オックスフォード英語辞書が2016年に「今年の言葉」として選びました。その定義によると「世論を形成する際に、客観的な事実よりも、むしろ感情や個人的信条へのアピールの方がより影響力があるような状況」のことで、噛み砕いていうと、「事実より感情が勝る」「信じたいウソを信じる」といったところです。日本では、2017年の流行語大賞に「ミネー」トされた30語のなかに「ポスト真実」

や「フェイクニュース」が入りました。

ポスト真実という言葉が広く使われるようになったのは、2016年。イギリスにおいてEU(欧州連合)の離脱是非を問う国民投票や、アメリカ大統領選がきっかけです。ウソの情報や悪質なデマがインターネット、おもにソーシャルメディア²で流れ、大きな影響力をもったことが話題になり、問題視されました。それ以前には、中東の民主化運動(アラブの春)に関して、ソーシャルメディアが市民を動員するのに大きな役割を果たしています。

ソーシャルメディアが不確かな情報の拡散する大きな原因となっており、国の動向をうらなうような選挙にあたっても重大な影響を及ぼすということをも市民が自覚したのが2016年だったのだと思います。オックスフォード英語辞書によると、ポスト真実という言葉を最初に用いたのは、セルビア系アメリカ人の劇作家ステイブ・テシックで1992年のことです。

——ポスト真実という言葉を使っていない時代から、そうした状況はあったわけですよ。

そうですね。ウソが通用するのは今に始まったわけではなく、政治の世界でも珍しいことではありませんでした。ただここ数年は、政治的な選択や世論の形成過程でソーシャルメディアの影響が大きくなっています。同時に、明らかに間違っている情報や、意図的な誤魔化しが正されないことも少なくありません。トランプ大統領の発言には間違いや不確実なものも少なくなく、典型的なポスト真実の状況を呈しているわけですが、一方で大統領自身が敵対するメディアを「フェイクニュースだ」と決めつ

分断をもたらすポスト真実

——曰比さんは著書のなかで、ポスト真実の社会を構成する要素を4つに分けて説明されていますね。

①ソーシャルメディアの影響、②事実の軽視、③感情の優越、④分断の感覚です。

まず①についてですが、ツイッターやフェイスブックなどのソーシャルメディアによ

けていて、混乱に拍車をかけています。

日本における事例を挙げると、2013年、IOC(国際オリンピック)総会にて、安倍首相が震災に伴う原発事故に関して「状況は完全にコントロールされている」とオリンピック招致演説で発言したことが典型的でしょう。汚染水の処理の難しさ一つを考えても、これは事実とは反しています。

ただし、ポスト真実やフェイクニュースを「政治の問題」とだけ考えると、単なる権批判のための言葉だと受け取られるだけに終わります。ポスト真実という言葉は、より広い範囲、より長い期間の社会的な変化を捉えるための概念です。ポスト真実という言葉が流行する背景をきちんと押さえ、どう対処すべきかを考えることが重要です。

集まりやすく、お互いが気に入る情報だけを共有することになります。この状態は、

いくつかの言葉で表現されますが³、ここでは「フィルターバブル」を使います。自分の心地よい情報だけを通し、ほかを遮断する皮膜(バブル)のなかに住んでいる状態を表す言葉です。異なった見解がお互いに交流することなく、フィルターバブルがたくさん併存しているのです。

これにより、もともと縁遠い情報にますます触れなくなるということが起きます。皮膜に閉じこもることで、社会的分断もたらされているのです。ソーシャルメディアは楽しむための場もありますが、憎悪、怒りにつながる場も少なくありません。ヘイトスピーチをする人も、ソーシャルメディアを利用していますね。一方で、ヘイトスピーカーのカウンター(反撃する人)のなかにも、フィルターバブルのなかにおいて、異質な情報や意見を知ろうとしない人もいます。

次に②の事実の軽視ですが、ウソがまかり通るといふより、「事実」が多すぎる状態です。たとえば、原発事故の影響や見解について、いろいろな人がまことしやかに語り、「知り合いが支持していたから」とか「自分の立場に合う情報だから」信じようという、多すぎる事実のなかから自分に都合のいい情報を「事実」としてつまみ食いすることになります。

また、科学の権威が失墜したことも影響